

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は 90 年を超える歴史の中で、地域に親しまれ地域で活躍する人材を数多く輩出してきた。
その教育活動を発展させ、より地域から信頼され愛される、北摂を代表する普通科中堅高校をめざす。

1. 多様な進路を志す生徒の夢をかなえるため、「やったらできる やらなでけん」をキーワードに、高い学習意欲を持った生徒を育てる。
2. 生徒指導に力点を置き、規範意識の向上に努め、将来の社会人として自立できるよう生徒を育成する。
3. 生徒一人一人が自信と希望を持って学校生活を送るよう、「成功体験」を感じることができるよう教育活動を展開する。
4. 地域に支えられてきた本校のたたずまいを大切に、学校情報の発信に努め、家庭や地域住民、中学校との連携を深め、地域に本校の応援団となっただけよう、開かれた学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 将来を見通した進路指導の充実

(1)「総合的な学習の時間」や LHR、長期休業期間を活用した進路関係行事の一層の充実と進路実績の向上

- ア 3年間を見通した進路計画のもと、早期（1年時）から卒業後の進路に向け動機づけを行う。
- イ 進路希望の種別ごとに実施している、生徒ならびに保護者対象の説明会の一層の充実を図る。
- ウ 進路希望実現率の向上を図る。

難関・中堅8大学へ各組2名の合格

医療・看護系短大・専門学校への進学希望者の全員合格

就職について早期指導と企業開拓に努め、引き続き100%の就職率をめざす。

※平成 26 年度に、3年間を見通した進路指導計画を作成する。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目で、2年終了時点で卒業後の進路希望を決めている生徒の率（平成 24 年度 63%）を3年後に85%をめざす。

※夏の進学講習の参加率を平成 25 年度 22%から3年後は 40%をめざす。

2 確かな学力の育成

(1)「わかる授業・できる授業」をめざした授業改善の取り組み

- ア 授業研究プロジェクトチーム（教頭、首席、教務主任、進路主任）により、研究授業・授業アンケートの効果的活用により授業改善の方策を検討する。
- イ 多様な形態の授業が展開できるよう、視聴覚教室並びに使用頻度の低い教室を改善する。
- ウ 分かりやすい授業を進めるため、ICT機器や視聴覚機器の活用を進める。

(2)さまざまな時間・場所での学習の機会の拡大

ア 図書館、自習室の有効活用を図るとともに、英語検定等各種技能検定の校内実施を進める。

※授業アンケート中の授業の理解度（「授業の内容や授業の進め方は生徒に適したものになっている」平成 25 年度 75%）を3年後に 85%に、積極的参加度の各項目について10%の向上をめざす。

3 規律・規範の確立と生徒の活動の活性化

(1)生徒の規律・規範意識を醸成するとともに、課題を抱えた生徒への支援体制を強化する

- ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- イ 不登校生徒や家庭状況が困難な生徒等に対して、保護者及び中学校、関係機関等と緊密な連携を図るとともに、保健指導・教育相談体制を充実させる。

(2)特別活動や生徒会活動を通じて生徒に成功体験を持たせる。

※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目で、「本校の指導は適切で納得できる」（平成 25 年度 66%）を2年後に 75%をめざす。

※保護者向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目で、「本校の指導は適切で納得できる」（平成 25 年度 76%）を2年後に 85%をめざす。

※生徒の部活動入部率（平成 25 年度 75%）を2年後には 80%をめざす。生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度（平成 25 年度 82%）を3年後に 85%をめざす。

4 地域連携の推進

(1)教育活動についてホームページ等を通じて積極的に発信するとともに、地域社会の一員として地域の様々な取組みに参加・貢献する。

- ア 引き続きホームページや携帯電話によるメールマガジンの充実に努める。
- イ 近隣の小・中学校や関係機関・団体との連携をさらに深めつつ、地域の乳幼児と保護者を招いての保育実習講座「渋谷であそぼうデイ」や天文観測会、生徒会及び部活動の地域行事への参加を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活】 「渋谷高校に来てよかった」とする生徒が 79%と昨年度を 5%下回った。「子どもは渋谷高校が楽しいと言っている」と答える保護者も 76%と同程度下がっている。学校行事の満足度も昨年度から若干低下している。決して低い数字ではないが「楽しい学校生活」が渋谷の特長である。生徒の変化に十分にに対応できているか、検討する必要がある。</p> <p>【学習指導】 家庭学習については予・復習していると答える保護者は 30%で昨年度より若干は増えているが、生徒では家庭での学習時間が 1 時間未満または全くしない者が 79%もいる。「自分なりの目標を持って授業に臨んでいる」生徒は 55.5%とわずかに半数を超える。「自分の興味・関心・適性・進路に応じた選択科目が多い」と答える生徒が 3 年生でも 45.3%と低い。授業改善のための教員研修を実施するとともに生徒の実態に応じた教育課程を再検討する必要がある。</p> <p>【生活指導】 保護者と連携しながら丁寧な生活指導を心がけており、「納得できる指導か」について生徒・保護者とも目標には届かなかったものの、昨年度並みを維持している。早期発見の取組やスクールカウンセラーとの連携が効果を上げている。項目「人の生き方について考える機会が多い」が若干上昇しているのは、外部人材の活用が効果的である。</p> <p>【進路指導】 入学時点で進路についてイメージできていない生徒が多い。1 年生のこの時点で卒業後の進路希望を決めているのがほぼ半数。2 年生では 7 割はほぼ昨年並み。進路情報の提供については「学校はよく知らせてくれている」とする生徒が 68%と昨年を下回った。情報の内容、提供の時期について再検討する必要がある。</p>	<p>第 1 回 OH26 年度学校経営計画について ・進路指導に、進学（大学、専門学校）・就職ともに目標を数値化したことでわかりやすくなった。実現に向けて取組みを重ねるよう期待する。 ・教員が一致して授業規律の維持に努めるとともに、授業力の改善に取り組むことが必要である。 ○授業改善について ・一般に授業の形態が従来より多様化している。教員間で授業改善について日常的に話し合うことが必要である。</p> <p>第 2 回 ○グローバル化への対応について ・外国語でコミュニケーションをとれるようになることは大切である。できれば現地を訪問して学ぶことが望ましい。百周年記念事業で取り組んではどうか。 ○地域との連携について ・渋谷は地域とのつながりが強く、生徒会活動や部活動を通じて様々な取組みに参加している。これからはさらに学校全体に広がりをもった取組みとするよう検討してはどうか。 ・学校組織に地域連携を位置づけてはどうか。</p> <p>第 3 回 ○自己評価（2 月暫定案）に関する評価 ・生徒の学校生活に対する満足度は昨年度から下がっている。依然として高い数値を維持しており心配ないが、指導について再点検する必要がある。 ・生徒指導については生徒・保護者とも良好な数字であり、引き続き理解を得るよう努めること。 ・生徒はマナーを守っているという自己認識であるが、登下校時の様子を見ると地域の実感からはずれている。地域との関係は渋谷の生命線である。十分に指導する必要がある。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
将来を見通した進路指導の充実	<p>(1)「総合的な学習の時間」やLHR、長期休業期間を活用した進路関係行事の一層の充実と進路実績の向上</p> <p>ア 生徒に職業について考えさせることによる、進路意識の向上</p> <p>イ 3年間を見通した進路計画のブラッシュアップ</p> <p>ウ 学習機会の拡充</p>	<p>ア・1年生を対象に企業等と連携して「職業」について考える「未来の職業を探せ」など、将来の「職業」を見据えた取組みの充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向け進路説明会の充実を図る。 進路指導について保護者の理解を得るため、中期計画推進費により視聴覚教室を整備・活用し、PTAとも連携して、保護者向け講演会を実施する。 <p>イ・基礎学力調査を十分活用するとともに、進路指導部を中心に、これまで実施してきたさまざまな進路行事を整理し、3年間を見通した計画とする。</p> <p>ウ・自習室・視聴覚教室を活用し、長期休業期間の講習の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種技能検定の受験を積極的に勧め、学習の目標を持たせる。 <p>エ・中期計画推進費により整備した視聴覚教室を活用し、総合的な学習の時間における進路指導、進学講習等の充実を図る。</p>	<p>ア・生徒向学校教育自己診断において「1年終了時点で卒業後の進路希望を決めている」70%（平成25年度52%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向学校教育自己診断において「進路情報の提供は適切である」80%（平成25年度77%） 難関中堅8大学へ各組2名の合格 看護医療系進学率100% 就職内定率100% <p>イ・生徒向学校教育自己診断における進路に関する項目で「2年終了時点で卒業後の進路希望を決めている」85%（平成25年度70%）</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断における進路に関する項目で「進学講習に参加した」30%（平成25年度22%）</p> <p>エ・視聴覚教室の活用回数の増加</p>	<p>ア・生徒向学校教育自己診断において「1年終了時点で卒業後の進路希望を決めている」はほぼ昨年度並みの51%にとどまった（△）</p> <p>「職業」について考える講演会「未来の職業を探せ」や大学・専門学校を招いてのガイダンスを実施した1月の希望者校内模試はほぼ全員が受験した</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向学校教育自己診断において「進路情報の提供は適切である」も微増の78%にとどまった（△） 保護者のニーズをさらに探る必要がある 現時点で難関中堅大学合格者6名（△） 国立大に3年ぶり合格者を出した 看護医療系進学率は100%を維持した（○） 学校斡旋就職は希望者16名中14名が内定（○） <p>イ・生徒向学校教育自己診断における進路に関する項目で「2年終了時点で卒業後の進路希望を決めている」はほぼ昨年度並みの68%（△）</p> <p>基礎学力調査の結果を生かして、担任による個別のガイダンスの充実が必要</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断における進路に関する項目で「進学講習に参加した」19%と目標に及ばなかった（△）</p> <p>エ・視聴覚教室は総合学習でのキャリアガイダンスや大学説明会、長期休暇中の進学講習に加えて、人権学習や中学生向け説明会等に活用した（○）</p>
確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業・できる授業」をめざした授業改善の取組み</p> <p>ア 授業アンケートの活用</p> <p>イ 研究授業の実施 研究協議の充実</p> <p>ウ 生徒の実態に応じた指導法の研究</p>	<p>ア・授業研究PT（教頭、首席、教務、進路）を拡大し、活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを課題の把握とともに教職員全体で課題意識の共有を図るなど授業改善に生かす。 学年目標を定めるなどして授業規律の徹底を図る。 <p>イ 教科枠を越えた研究授業を実施する。</p> <p>ウ・わかる授業をすすめるため生徒参加の授業づくりに関わる教職員研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期計画推進費により整備した視聴覚教室や視聴覚機器・ICT機器を活用した指導法の工夫をすすめる。 	<p>ア・授業アンケートにおいて「授業は生徒に適している」(H25 75%)「授業に集中して取り組んでいる」(H25 79%)をそれぞれ5%増</p> <p>イ・2教科で研究授業を実施して、参加者数を拡大（H25 延べ25名）</p> <p>ウ・研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向学校教育自己診断における授業に関する項目で「視聴覚機器の活用」5%増（H25 58%） 	<p>ア・授業アンケートにおいて「授業は生徒に適している」75%と昨年並み。「授業に集中して取り組んでいる」も78%と昨年並みにとどまった（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業規律について職員会議や授業観察等を通じて徹底を図った（○） <p>イ・3教科で研究授業を実施してのべ30名参加（○）</p> <p>新たに中堅教員を中心に公開授業週間をもった</p> <p>ウ・生徒の学習動機づけにかかわる教職員研修を実施</p> <p>授業アンケート「先生の話し方は分かりやすい」昨年並みの76%（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向学校教育自己診断における授業に関する項目で「視聴覚機器の活用」は昨年度並みの57%（△） 第3学年では昨年度の32%から53%に増加したが部分的にとどまる
規律・規範の確立と生徒の活動の活性化	<p>(1) 生徒の規律・規範意識を醸成するとともに、課題を抱えた生徒への支援体制を強化</p> <p>ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める</p> <p>イ 不登校生徒や家庭状況が困難な生徒等に対して、保護者等との緊密な人間関係を構築するとともに、保健指導・教育相談体制を充実させる</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒に成功体験を持たせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻指導を見直し、一層効果的なものにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下校時の立ち番指導及び地元警察との連携等により、下校時の自転車マナー指導を強化する。 携帯メールを活用して発信力を強化し、学校の指導方針について保護者の理解と協力を求める。 <p>イ・課題を抱えた生徒の指導については、これまで教育相談部・生活指導部・学年・養護教諭が連携を取り、保護者の理解を得ながら進めてきた。引き続きこの連携を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーや子ども家庭センターなどの外部専門機関との連携を積極的に進める。 <p>(2)</p> <p>ア・1年生の1学期中の全員入部制度により部活動への参加を勧める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会等で好成績を収めた部に対する支援と広報に努める。 文化祭、体育祭等の生徒会行事への積極的な参加を促進する。 生徒会・部活動による地域行事への参加など地域への貢献を一層進め、ホームページなどで活動の紹介に努める。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向学校教育自己診断において「本校の指導は適切で納得できる」70%（平成25年度66%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数10%減 地域からの登下校マナーの苦情減 <p>イ・教育相談部会での定期的な情報交換の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向学校教育自己診断において「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」62%（平成25年度57%） <p>(2)</p> <p>ア・部加入率80%（H25 75%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向学校教育自己診断において学校行事の満足度85%（平成25年度82%） 生徒向学校教育自己診断において「地域の人々に関わる機会がある」45%（平成25年度38%） 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向学校教育自己診断において「本校の指導は適切で納得できる」63%（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数は指導法を工夫し、10%減少した（○） 地域からの生徒の登下校マナーについて苦情をいただくことがある。丁寧に対応するとともに、適宜下校時指導を行っている（○） <p>イ・学年担任会や教育相談部会での情報交換を通じて、課題を抱えた生徒の早期発見に努めた。必要に応じて、スクールカウンセラーの助言を求め、改善につながっている。併せて、教育相談にかかわる生徒講演会や教職員研修会を実施した（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向学校教育自己診断において「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」54%と若干低下（△） <p>(2)</p> <p>ア・1年生の部加入率が68%と例年より低調（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> 放送部、水泳部、硬式野球部などが好成績を収めたので、昼食時の校内放送で紹介するとともに、ホームページに活動を掲載した（○） 生徒向学校教育自己診断において学校行事の満足度71%（△） 地域に対しては放送部が地域行事の進行のお手伝いをしたり、生徒会執行部やよさこい部、ダンス部の施設訪問、池田市商業祭参加、吹奏楽部の渋谷中学校との合同演奏など、地域との連携に努めた。また、保育実習等を通じて地域の子育て支援団体との連携も進んだ。一方で、生徒向学校教育自己診断において「地域の人々に関わる機会がある」32%にとどまり、学校全体の取組の広がりに課題がある（△）